



令和4年度 第3号
常磐野小学校 校長室だより
令和4年6月13日発行 文責 清川 秀一



「ときわぎ活動」

校舎の窓から見える山々の木々の緑が色濃くなる時期となりました。気温も上がってきて、プール学習も始まりました。

先日、今年度の「ときわぎ活動」がスタートしました。「ときわぎ活動」とはいわゆる「たてわり活動」と呼ばれるもので、6年生をリーダーとして1年生から6年生までで構成する小グループで遊びを通して、つながりを深める活動です。6年生には最高学年としての自覚を育てる意味がありますが、「ピアサポート」を体験する場として重要と考えます。



ピアサポートとは仲間同士による支えあい活動です。支え合いや思いやりなど人間関係の豊かさは、かつての日本では当たり前の社会の資本（ソーシャルキャピタル）だったように思います。しかし、高齢化社会を迎え、核家族化などの要因から、家庭や地域で共助（お互いに支え・支えられる関係）が築きにくくなっているのが大きな社会問題になっています。さらにコロナ禍では子ども同士の遊びを通じた人間関係そのものが築きにくくなっています。

地域の中で集団遊びをしにくくなった現状では、「上の学年が下の学年に遊びや生活の知恵などを伝え、下の者はそれらを自然に学ぶ」という素朴な社会化機能をもつ縦割り集団も作りにくくなっているのではないのでしょうか。そのような中で「ときわぎ活動」は、異年齢集団で交流をすることによって社会性を育成することに役立ち、さらには人間関係の築きにくい児童の「自己肯定感」の低下を防ぎ、「自己有用感」を生み出そうとする活動でもあります。

「ときわぎ」とは松や杉などの常緑樹を指し、平安時代では、年中葉の色が変わらない緑の常緑樹のことを「常盤木」と呼び、永久に不変という意味がありました。英語では evergreen と呼ばれます。「常盤色」という名前の色もあり、松や杉などの常緑樹の葉の色のような濃い緑色のことです。「ときわぎ活動」という名前には、子どもたち同士のつながりが永遠でありますように、という願いを込めています。

